

2026 年度 亀田医療技術専門学校
学校関係者評価 報告書

令和 8 年 7 月

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

学校法人 鉄蕉館 亀田医療技術専門学校における学校関係者評価の目的を以下のように定める。

- 1) 自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高めること。
- 2) 学校において卒業生・関係業界、関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民など学校関係者により構成された学校関係者評価委員会が、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色ある専修学校づくりを進めること。

2. 学校関係者評価委員会名簿

属性	氏名	所属	役職
関係業界	滝口 智子	医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院	看護管理部 副部長
	泉 綾乃	社会福祉法人 太陽会 たいよう 健康管理室	室長
高校教員等	庄司 雅和	千葉県立長狭高等学校	校長
卒業生	佐藤 悦子	医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院	看護部主任
	福原 恵美子	医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院	看護部
在校生保護者	堀江 秀一	医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院	看護部副主任

3. 2026 年度学校関係者評価委員会の実施状況

日時：令和 8 年 5 月 25 日（月）15：00～16：25

場所：亀田医療技術専門学校 2 号館 3 階 301 教室

出席者

外部委員 4 人

- ・〔高等学校〕 庄司 雅和 千葉県立長狭高等学校 校長
- ・〔関係業界〕 滝口 智子 亀田総合病院看護管理部 副部長
- ・〔卒業生〕 佐藤 悦子 亀田総合病院 主任
- ・〔在校生保護者〕 堀江 秀一 亀田総合病院 副主任

内部委員

- ・学校長 安田 友恵
- ・副学校長 吉田 広美
- ・看護学科教育主任 関根 恵子

・助産学科教育主任 黒川 美和

欠席者

外部委員 〔関係業界〕 泉 綾乃 社会福祉法人太陽会 たいよう 健康管理室 室長
 〔卒業生〕 福原 恵美子 亀田総合病院

司会：吉田

委員会次第

1. 開会、資料確認

吉田副学校長が司会を務め、資料の有無を確認。

2. 参加者の確認

外部委員の異動について報告。千葉県立長狭高等学校長となった庄司雅和氏が就任、関係業界についても、滝口智子氏が就任した。

3. 学校関係者評価について

学校評価の目的、形態と定義に基づいて委員を選出し、本委員会を開催、討議内容を公開することを確認した。併せて学校評価、自己点検等のスケジュールについて確認。今年度はスケジュール通りに実施していく予定であることが報告された。

4. 学校長挨拶

近年、地方の専門学校を取り巻く環境は厳しさを増しており、閉校を余儀なくされる学校も見られる状況である。そのような中、本校は地域医療を支える人材の育成を使命として教育活動に取り組んでいる。今後も地域や社会から選ばれる学校であり続けるため、自己点検・自己評価を通して現状を客観的に把握し、課題の整理と改善に努めていく。委員各位には、引き続き忌憚のないご意見をいただくとともに、本校の教育活動および学校運営の改善に向けたご協力をお願いしたい。

5. 2025 年度自己点検・自己評価の結果について

①「令和 7（2025）年度 自己点検・自己評価結果概要」評価結果について

取り組み、方法（評価項目、基準、対象者、評価時期）等を確認。

<評価結果>

I. 教育理念・教育目的（+0.3） II. 教育目標（±0）

学生像・卒業生像の見直しを教員間で議論し、共通理解を進めたことが評価向上につながったと考えられる。

III. 教育課程経営（+0.1）

今年度は出席・成績管理システムの導入により、教員の業務量の軽減、改善を期待している。ただし、「授業準備時間の確保」は引き続き課題である。

IV. 教授・学習・評価過程は（+0.1）

授業内容の整合性や多面的評価の改善が課題。カリキュラムの見直しを進めている。

V. 経営・管理過程は (+0.1)

組織の意思伝達の頻度向上が、全体的な評価を押し上げたと推測する。

VII. 卒業・就業・進学 (+0.2)

卒業生の主な就業先（亀田総合病院）管理者へのアンケートを実施し、活動状況の把握に努めた。

VIII. 地域社会/国際交流 (+0.1)

災害ボランティアや土曜スクールなど地域との連携を拡大中である。国際交流については、海外研修先の開拓を進めている。

IX. 研究 (-0.1)

優先度が低い状況が例年続いており、意識向上と業務整理が必要と考える。

<2025 年度重点目標評価>

1) 入学者の確保

指標：受験者数、入学者数の増加

- ・看護学科) 学生募集活動の対象を拡大する

→受験者、入学者数ともに減少した。募集活動の強化が急務であると考え、オープンキャンパスやガイダンス参加者へのフォローアップの充実を図っていく。

- ・助産学科) 施設推薦入試による学生を1名以上確保する

→3年間施設推薦の該当者がいなかったが、昨年度は2施設から2名の受験、入学があった。

さらに施設から実習に対し他の学生の受け入れを前向きに検討していただけたため、入学生を14名から18名に増員した。

2) 基礎教育と卒後教育の連携

指標：卒業生の職場適応

- ・看護学科) 卒業時および卒後アンケートをもとに評価を行った。

→卒業時にディプロマ・ポリシーに基づくアンケートを実施した結果、概ね達成されていた。

しかし、主体的学習力、協働力、メンバーシップ、リーダーシップ、倫理観に基づく行動については課題が認められた。

- ・助産学科) 卒後1～3年目に対する支援体制の強化を図る

→同窓会を隔年で開催し、その際に動向調査を実施しているが、卒業生全体の状況把握には至っていない。

3) 教育の評価と向上

指標：認定試験、実習評価、国家試験の結果

- ・看護学科) 入学前・入学後基礎学力支援担当と連携し対象学生の支援に努めている

→対象学生は全体の約半数を占めており、学習習慣や学習方法が十分に身につけていない学生も一定数見られる。4月から支援を強化した結果、9月時点では対象者が半数程度に減少した。今後は主体的に学習を行う成人学習者の育成を目指す。

- ・助産学科) 演習による技術とアセスメント力の強化を図る

→分娩介助件数の不足については学内演習で補完している。今年度からシミュレーターを導入したため、さらなる技術力・アセスメント能力の向上を目指す。

4) 教員の教育力向上

指標：授業評価、教育効果の評価

- ・看護学科) 研修参加と受講後の報告を推進し共有を図る
→研修参加者は増加しているが、受講内容の共有については不十分である。
- ・助産学科) 授業評価において臨床指導者や教員の他者評価を取り入れる
→演習では複数教員から意見を求めているが、評価結果の記録化が十分に行われていない。

②2026 年度重点目標について

1) 学生

(1) 学生の受け入れ

学生確保が難しい状況にある中、看護学科では以下の通り KPI を設定した。

オープンキャンパス・個別見学 140 名、受験者数 80 名、入学者数 60 名

これらの目標達成に向けて、広報活動を強化していく

(2) 学習支援

国家試験合格 100%を目指し、現役生、既卒生ともに年間計画を策定しながら支援体制を構築する。

(3) 学習環境の整備

学生が学習しやすい環境の整備を継続して進める

2) 教員・職員

(1) 教育力向上に向けての教育環境の整備

教員の臨床現場での兼業を推進している（現在 4 名が勤務中）。臨床実践力を高め、その経験を教育に還元することで、より実践的な教育を行う。

(2) 職員の資質、能力の向上

各教職員で学びの共有をし、研修等を通じて職員の資質および能力向上を図る。

3) 内部質保証

自己点検・自己評価を継続的に実施し、教育活動の改善につなげる。学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を継続的に実施し、検討内容を社会に公表する。

4) 地域貢献

助産学科では近隣の小・中学校において思春期教育を実施している。

今後は活動範囲をさらに拡大していく予定である。また、土曜スクールや地域行事等に学生がボランティアとして参加できる機会を設け、地域との連携を一層推進していく。

4. 自己評価結果概要

1) 自己点検・自己評価の実施

本校では、自己点検・自己評価の取り組みとして、「看護師等養成所の教育活動等に関する

自己評価指針作成検討会」報告書を基に点検・評価項目を見直し、9領域のカテゴリー及び124項目の小項目を設定した。そして、作成した評価表を基に自己点検・自己評価を実施した。

(1) 方法

作成した自己点検・自己評価表に基づき本校教員が自己評価を行う。その集計結果を踏まえ次年度の目標を導き出す。

(2) 評価項目

・9領域124項目

I. 教育理念・教育目的、 II. 教育目標、 III. 教育課程経営、 IV. 教授・学習・評価過程、 V. 経営・管理過程、 VI. 入学、 VII. 卒業・就業・進学、 VIII. 地域社会／国際交流、 IX. 研究

(3) 評価基準

・5段階評価（1：当てはまらない 2：やや当てはまらない 3：どちらとも言えない
4：やや当てはまる 5：当てはまる）

(4) 対象者

・教員16名（看護学科、助産学科）

(5) 評価時期

・令和8年2月

2) 自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『2025年度自己点検・自己評価結果』を用いて、亀田医療技術専門学校の担当者より学校関係者評価委員に対して、各項目の自己点検実施状況及び自己評価ポイント、評価の課題、今後の改善方法等について説明をした。当日は重点目標を中心に検討をお願いした。

5. 重点目標について

1. 学生について

1) 計画

(1) 学生の受け入れ

- ① 広報活動についての方針を学校全体で共有し、広報活動を強化する。
 - ・高校訪問の年間計画化、活動人材の拡大を図る。
 - ・Web広報のコンテンツの改善を図る。
 - ・オープンキャンパスにおいて職業イメージの可視化を目指す。
 - ・保護者層への情報発信を強化する。
- ② 近隣市町村および、関連業界との結びつきを強化し、地域および看護領域に学生を呼び入れる。
- ③ 看護学科は、総合型選抜入試を導入し、本校のアドミッション・ポリシーに合致した人材を確保する。
- ④ 助産学科は、施設推薦を導入、継続的に実習機会の確保に努め、学生増に対する基盤

を作る。

(2) 学習支援

- ① 国家試験合格率 100%を目指し、現役生、既卒生を含めた支援体制を構築する。
- ② 知識および実践力向上に向けた効果的な学習のためにカリキュラムを再編成する。
- ③ 関連業界と提携し、他職種連携教育を強化する。

(3) 学習環境の整備

- ① リテラシー教育を強化する。
- ② 要支援学生の情報を教員間で共有し、効果的な支援方法を検討・実施する。
- ② 学生の学習ニーズ・教育ニーズに対応した教材を配備する。
- ③ 実践能力向上に繋がる学習環境を整備する。
- ④ 学生・教員の意見を反映させ、通学および学校生活の充実にむけたハード面・ソフト面の充実を図る。

2) ご意見・提案等

- ・18 歳人口は確実に減少しており手立てを加えなければ入学者は減少するので、できることから対策を講じることで、結果は後から表れる。
- ・学生寮として古民家を活用（いすみ市）している例がある。
- ・病院では広報に SNS を活用し、部署ごとの対象者を絞った情報発信に力を入れている。
- ・Z 世代は母親との距離が近いので、保護者向けのアプローチも重要である。
- ・病院では、看護師とリハビリ担当者がチームを組んで関わること（セル看護方式）で効果を上げている。臨床現場ではリハビリの方との協働は必須であり、基礎教育で多職種連携を学ぶことは重要である。

評価結果	適切 6 名 (100%)	不適切 0 名
〈コメント〉		
・18 歳人口の減少が進む中、学生確保に向けた広報活動の強化や、地域・関係機関との連携を重視した計画は適切である。特に、Web を活用した情報発信や保護者層へのアプローチは、時代のニーズを踏まえた取組として評価できる。また、国家試験対策の充実、多職種連携教育の推進、要支援学生への支援体制の整備など、学生一人ひとりの学びを支える視点が盛り込まれている。		
・学修環境の整備に関しても、他学と連携し教育を行っていくことは、看護師数の減少が見込まれる中で、多職種連携がより重要になってくる中では非常に良い取り組みだと思いました。		
・少子化や進学先の多様化により学生確保は難しくなっていると思いますが、その中でも広報活動の強化や保護者への情報発信など、現状に合わせた取り組みが計画されており適切だと思います。		
・医療現場では多職種との連携は欠かせないため、関連業界と連携した教育の充実		

に期待します。

- ・国家試験合格率 100%を目指す取り組みは学校の大きな強みになると思います。入学した学生が学業を継続し、留年することなく国家試験合格を目指せるような支援体制の充実が、学校の魅力向上につながると考えます。
- ・まずは入学してもらわなくてはいけないので、保護者同伴+食事会かねた在校生や卒業生との懇親会など積極的に（可能であれば回数増やすなど）行っていく。学校を知ってもらう情発信に力を入れることはとても重要であると考えます。
- ・保護者へのアプローチの強化は必要と考える。

2. 教員・職員について

1) 計画

(1) 教育力向上に向けての教育環境の整備

- ① 教員のラダーを導入し、人事考課のシステムを検討する。
- ② 業務整理を進め、授業準備や教材研究のための時間を確保する。

(2) 職員の資質、能力の向上

- ① 各教職員の学びを学内で共有する。
- ① 教員間での授業参観・相互評価のシステムを検討する。
- ② 法人内 SD・FD 研修、グループ内研修、関連学会・研修会等への参加を促進し、e-ラーニングの導入も検討する。
- ③ 臨床と連携し、臨地実習指導力の強化を図る。

2) ご意見・提案等

- ・教員同士の授業参観は、授業参観週間と設ける等、期間を限定する方が実践しやすく、参観することで互いの研鑽に繋がる。
- ・教員間での授業参観・授業評価を必須としている専門学校もある。
- ・病院看護部の研修等で協力できるものについて、共有する。

評価結果	適切 6 名 (100%)	不適切 0 名
〈コメント〉 ・教育の質の向上を図るため、教員の資質・能力向上や教育環境の整備を計画的に進めようとする方針は適切である。授業参観や研修、学びの共有などを通じて教員間相互の研鑽を促して、組織的な教育力向上につなげようとしている。また、業務整理を進め、授業準備や教材研究に十分な時間を確保できる体制づくりにも期待できる。		

- ・特に、職員の資質、能力の向上で、各職員の学びを学内で共有する取り組みは職員の資質向上に効果的な取り組みだと思いました。
- ・教員の能力向上に向けた取り組みが計画されており、適切であると感じました。教員は授業だけでなく多くの業務を抱えていると思いますので、業務の整理や効率化を進め、研修や教材研究など自己研鑽のための時間を確保できる環境づくりが大切だと思います。教職員それぞれの学びを共有しながら、学校全体の教育力向上につながることを期待します。
- ・授業を通した教員・職員のスキル Up に繋がるような参観がいいですね。ただ評価されるだけでは自分の課題は見えるだろうけど、その課題を達成するにも時間が必要だろうし、授業や実習で自分のスキルが活かされる教員・職員の教育ができるとやりがいにもつながると考えます。
- ・評価指標にラダー導入は必須と思われる。

3. 内部質保証について

1) 計画

- ① 計画に沿って自己点検・自己評価を実施し、教職員間で課題を共有し改善を図る。また、結果を社会へ公表する。
- ② 学校関係者評価委員会を開催し検討内容等を社会へ公表する。
- ③ 教育課程編成委員会を計画的に実施し、カリキュラムなどの教育課程について検討を行い、結果を基に改善を行う。また、委員会での検討内容を社会に公表する。
- ④ 学生による授業評価の方法を検討する。

2) ご意見・提案等

- ・計画を実施する。(討議時間は設けなかった)

評価結果	適切 6 名 (100%)	不適切 0 名
〈コメント〉 ・自己点検・自己評価を実施し、その結果を公表するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会の意見を教育活動の改善につなげていく方針は適切である。 ・自己点検・自己評価を継続し、その結果を改善につなげていく体制が整えられており、特に問題ないと思います。 ・学生評価は、学生が興味を持って授業を受けたり学習するための一助になると考えます。評価を活かした教育課程などの検討を期待します。 ・病院で行っている ISO を学校教育にも適応してみてもどうか。		

4. 地域貢献について

1) 計画

- ① 近隣の思春期教育、土曜スクール、地域の行事等に学生が参加できる機会を設ける。
- ② 災害支援教育と連動させ、地域の防災ボランティア活動への参加を促進する。
- ③ 学校祭等のイベントを通し、地域住民との交流を促進する。

2) ご意見・提案等

・高校では要請に応じて対応しており、参加者は多い。部活動単位での参加もあり運営しやすい

面もある。有志での参加の場合、機会があればできるだけ参加し、開拓していくとよい。

・地域を知り、地域の方々との関係性を築き、地域に残ってもらえるとよい。

・イベント等で看護学生が学童期の児童とのかかわりをもつことで、児童の職業意識にいい影響があることも期待している。

評価結果	適切 6 名 (100%)	不適切 0 名
〈コメント〉 ・地域の行事やボランティア活動への参加を通じて、学生が地域社会とのつながりを深める取組は大変意義がある。地域との関係性を構築しながら、学生の社会性や実践力の向上につなげるとともに、地域に根ざした人材育成について期待できる。 ・地域住民との交流は、地域の住民のニーズを肌で感じられる機会にもなるので、良い取り組みだと感じました。 ・学生が地域活動やボランティアに参加する機会を設けることは、地域を知るきっかけになるとともに、コミュニケーション能力の向上にもつながると思います。地域とのつながりを深めながら、地域に貢献できる人材育成につながることを期待します。また、地域住民にとっても学生との関わりは良い刺激になり、お互いにとって良い関係づくりにつながると思います。 ・一番地域貢献しやすいのは学校でのイベント開催、住民参加と考えます。地域の施設などでの開催で近所の住民も参加しやすくするなどの検討を期待します。 ・社会性を築ける良い機会となると思うので積極的に参加してほしい。		